

粘液怪人「リーダー♡ 起きて♡」

ピンク「リーダー。起きて下さい！」

粘液怪人「今日は特別な状況を、用意してあげました♡ くすす♡」

ピンク「リーダー…くう…気を確かにこんな怪人に負けちゃダメです…私のことは、あ、あん♡、気にせずに…こんなヤツ、やっちゃって下さいッ！」

粘液怪人「気がついたみたいですね。グッドモーニング、リーダーあ♡」

ピンク「よかった…無事で…状況、わかりますか…？ 私とリーダー、ふたりともに捕まってしまうんです、が…」

粘液怪人「リーダーのために、ぴちぴちのピンクのコピー体を用意したんですよ。しかもリーダーと初エッチした、ラブラブ設定です♡」

ピンク「な、なに言つて…私は本物です…偽物の言うことなんて信じないで！」

粘液怪人「ふふっ、そう思ってもらわないと困りますね。意志はありますけど、この子の体は私、ピンクゴムが自由に動かせる、いわばお人形さんです♡」

ピンク「くっ…そんなウソ、信じませんから」

粘液怪人「じゃ、その証拠に、今からリーダーとドスケベエッチしてもらいます♡」

ピンク「そんな…や、やあ…怪人の前で、なんてッ…でも身動きが…手が勝手に、おっぱいを持ちあげてえ…」

粘液怪人「まずは二人でご奉仕♡ 私も、んんっ、デカパイを押しつけて、んん♡ パイ、ズ、リ♡ してあげましょう、ね♡」

ピンク「どうして、こんな下品な真似っ…あ、ああ…」

粘液怪人「ピンクお胸を押しつけて積極的♡ じゃ、私もおっぱいを上下に動かして、んんっ♡」

ピンク「前…リーダー、負けちゃダメです！ こんな、ふあ…こんな悪の組織の怪人なんかにつ…あ、あ♡……こんな私じゃ♡ はあ、はあ……リーダーのさきっぽが♡」

粘液怪人「私と私のぬとぬとダブルパイズリ♡ 気に入ってくれた？ 大丈夫♡ ピンクもリーダーのおちんぼの熱、この下品なデカパイで感じて、最高に興奮してるみたい、ね♡」

ピンク「私は…そんなこと…ひう♡ んあ♡♡ー？」

粘液怪人「見え透いたウソはダメ♡ ほら、あなたのおまんこに指を突っ込んだだけでこんなエッチな水音させてる♡」

ピンク「あ、あん、おっぱい擦りつけて、ごめんなさい♡　けど、リーダーなら負けないと信じてますから」

粘液怪人「こんなこと言いながらも、ほらピンクの乳首、勃起して、パイズリで感じてるんですよ。」
ピンク「や、やあ、そんなことない、これは無理やりで…あ、ああ…♡」

粘液怪人「ふふふ、それじゃリーダーのチンポも準備万端みただし本番♡　行ってみようか♡」
ピンク「な、なにいつて…あ、ああ…体、勝手に動いて、リーダーのオチンポ、んい、んいい、おまんこで、啜えこんじゃったあ♡」

粘液怪人「じゃじゃじゃーん♡　私はペニバンチンポでピンクのアナルからリーダーのオチンポ♡　ぐりぐりしてあげる♡」

ピンク「ふひ、んひい、らめ、らめえ、んぐ、はぐう、前と後からなんて、リーダー、目を覚まして、ぐ、ぐぐ、ふぐぐ♡」

粘液怪人「あゝあ、まだ堕ちないんだ。リーダーもせつかくのピンクまんこなのに、いっぱい混ぜてあげてよ」

ピンク「リーダーは簡単に堕ちません。今までも私たちのピンチを助けてくれましたから。組織のビッチ怪人にはわからないですよ！　お、おおつ、お尻、ダメっ♡」

粘液怪人「まったく、生意気ね。私、こんなにわからず屋だったなんて。じゃあ、私がリーダーのオチンポ、もらっちゃうから、交代交代♡」

ピンク「そんな……」

粘液怪人「なによりリーダーに出して欲しかったの？　くすすっ♡」

ピンク「くっ…ち、違います…！」

粘液怪人「だったら、いいじゃない。それじゃ、私がリーダーと――あ、ああ…ほらピンク見て…私のところろまんこが、リーダーを啜えていくの、おふ、ほふう、ぶつといの、たまらひい、んい、んいッ♡」

ピンク「くっ…リーダーの勃起、メス怪人の中で、あんなにすごくて…遅い、出たり入ったり…」

粘液怪人「我慢しないでいいから、一回出しましょうよ。ん、んん♡　あ、ああ、ビクビク震えて、ほらあ、あと少しで、ああ、あああっ♡♡」

ピンク「や、やあ…汚らわしいです…敵のおまんこを必死に貪るなんて…ね、リーダー、しつかりして！　ヒーローの誇りを忘れたんですかー？」

粘液怪人「あひ、ふひ、ケタモノみたいに腰振つて、そーいうの全部忘れちゃいましたよね。」

ピンク「ああ、リーダー、リーダー……」

粘液怪人「お、おお、あと少しで出ちゃうね。それぞれ、それ、熱々せーし吐き出してえッ♡　んんっ、自分に見られながらナマ出しされるの、格別な気分♡　最高の露出プレイかも♡」

ピンク「はあ、はあ♡……あんなにいっぱい……んっ♡……中から溢れて♡」

粘液怪人「ん、どうしたのピンク？ 焦らなくてもリーダーのオチンポは逃げないわよ♡ あら、ドロドロ♡ せつかくだから♡」

ピンク「あ……ああ♡ 逆らえない……こ、これは敵に体を操られて……んちゅ♡ んんっ♡……れろ、れろお……♡」

粘液怪人「大丈夫、リーダーも悦んでるわよ。ほら、汚れたオチンポを綺麗にしてあげて♡ 怪人の愛液でべとべとで、このままだと洗脳が進んじゃうわよ♡」

ピンク「そ、それは、いけないです……だったら、ちゅばちゅぶ、じゅぶ、私が綺麗にします♡ あむ、はむむ、んじゅる、ちゅぶちゅば、リーダー頑張つて♡」

粘液怪人「言い訳を用意したら、さうそく啜えこんで、フェラチオだなんて♡ さすがは淫乱ピンクねっ♡」

ピンク「だつれえ、これは仕方ないんです、ちゅばちゅぶ、リーダー切なさうで、もう出そうッ♡ ちゅばちゅぶ♡ 私の口のほうが、メス怪人のおまんこより、いいですよ、ほら出ひてえ、このままお口に、ちゅぶじゅば、ちゅぼじゅぶ♡ このまま奥まですいつてえ♡ んちゅ、ぢゅる、ぢゅるる♡」

粘液怪人「口を突き出して、下品にフェラだなんて♡ 私らしくて淫乱で、素敵♡ 一生懸命になると、普段抑圧してたどろどろの欲望が顔を出すのね♡」

ピンク「そんなころお、言わなひれえ、ちゅばちゅぶ♡ ガチガチの勃起い、喉に当たつて、ぐ、ぐ、ぐ、リーダー、はげひいれすう♡」

粘液怪人「すっぽんみたいに吸いつて♡ あれ、リーダー♡ まだ耐えようとしてる？ 口を開けて舌を出してなっさけなく喘いでるのに♡ まだちようとだけ正義の心が残ってる、ね♡ でも、気づいてませんか？ 自分から腰、振っちゃって、ピンクのおまんこ、食ってますよ♡」

ピンク「リーダーあ、ちゅぼちゅぶ、ちゅぼぶ♡ チンポ綺麗にしますから♡ 全部、吸い出さないとお♡」

ピンク「んぢゅるっ、んっぢゅるるっ♡♡♡♡♡」

ピンク「んぶぶぶ、んくんく、こくっ……リーダーの精子の匂い♡ すはっ♡」

粘液怪人「もう、独り占めはダメよ。あなたは私なんだから♡ おすそ分け頂戴♡」

ピンク「んぶうー？ んんっ♡……ちゅぼっ♡ れろっ♡……じゅぶっ♡」

粘液怪人「んちゅっ♡ ん……んん♡……はぶっ♡ ちゅるっ♡ ん、んん♡ ぶはっ……いぢぢぢなまま♡ これであなたも自分の本性を理解できたよね♡」

ピンク「ふあっ……でも、でもっ……私は、リーダーを支える……戦隊のメンバーで……悪の片棒をかつぐわけには……ふー、ふー……♡」

粘液怪人「くすすつ、本当に強情ねえ。われながら、びつくりするわ。じゃ、しょうがないから、あなたの勝ちつてことでいいわよ」

ピンク「え……う」

粘液怪人「うん、もうエッチなことはしないでいいから。私がリーダーとやつてるところ見てない。」

ピンク「え、ええー？」

粘液怪人「でも、ピンク。それがあなたの望みのよね。くすすつ。」

ピンク「そんなあ……」

粘液怪人「はあはあ、はあつ……このリーダーの、ぶつといオチンポお。なんと、やつても飽きないわ

♡ リーダー用に調整した私のえつろいオマンコで、いっぱい気持ち良くなっちゃおうかしら♡」

粘液怪人「ああつ、楽しみすぎて、イキそうっ……♡」

ピンク「あ、あ……いやー？ 私、私ッ……！」

粘液怪人「あれー？ いい子ちゃんのピンクはなにか言いたいことあるのかな？ まさか、せつかく頑張つて耐えたのに、自分はおちんぼ大好きなピッチでえ、ガチ淫乱のお、正義の味方失格ヒロインつて、宣言しちゃう？」

ピンク「そんな……こと……な、ないッ……！ です……」

粘液怪人「あれれ？ さっきより、齒切れ悪くない？ 我慢は体に悪いわよ。もう自分に正直になつたら？ リーダーもオスマ、ビキビキでピンクとしたそう♡ くすすつ。」

ピンク「ううっ……でも……ひううっ♡ はあ、はあつ、リーダーのおちんぼが目の前にいゆぐちゅ出入りしてる音も♡ 濃いリーダーの匂いも♡ ダメ、ダメなの……♡」

粘液怪人「じゃ、正直な今の気持ち、言ってみて♡」

ピンク「フー、フー♡……あ、あつ……あああ、熱くて硬いリーダーの間近で見ちゃったら……ごめんなさい……私ダメでしたあ……♡ あえ、んええ……ひつ、否定してたのに♡ もうムリい♡ 本当はセックスしたかったですう、私、リーダーのオチンポだけあれば、あとはどうでもいい♡ 正義の味方失格の、淫乱ヒロインです♡ ごめんなさい、ごめんなさい……」

粘液怪人「あはつ、正直になれて、うれしい♡ これで戦隊ピンクこと天野沙月も、堕ちちゃったね♡ 心は私、組織の王怪人、チェリー・ピンクゴムとおんなじ。くすすつ。」

ピンク「ああ、認めちゃった♡ リーダーの目の前で♡ でも、リーダーも悪いんですよ♡ こんな怪人の誘惑に負けて♡ おちんぼガッチガチに勃起させて♡ こんな♡ こんな♡ 我慢出来るわけ無いです♡」

粘液怪人「じゃ、ピンク♡ リーダーのデカマ、一緒におねだりしようか。」

ピンク「はい……♡」

粘液怪人「ね、ね♡……リーダー、オチンポちょうだい♡」

ピンク「ごめんなさい、ごめんなさい……でも、こんなオチンポ見せられたら♡ 私、やっぱり淫乱な本性だったみたいです♡ だから、ね♡」

粘液怪人「ふふふ、二人で手コキしてあげてるのに、なっさけない顔♡ 目の前でピンクが堕ちたのそんなに効きました？ もちろん狙ってやったに決まってるでしょ。あはは♡ それシコシコ、しこしこ♡」

ピンク「もういいんですよリーダー♡ オチンポこんなに限界で♡ 射精しましょ♡ 射精♡」

粘液怪人「負けちゃえ♡ 負けちゃえ♡ シコシコされてなんにも考えずに負けて射精しようね♡」

ピンク「しこしこ、しこしこ♡、リーダーのチンポ一生懸命ご奉仕しますから♡ 精子ください♡

せーし♡ びゅっびゅつて出しましょ♡ ね、リーダー、気持ちいい？ しこしこ、いいよね？」

粘液怪人「こちも、しこしこ、しこしこ♡ あらピンクったら、私より手コキうまくなってる、くすす♡」

ピンク「だつて、尊敬するリーダーのオチンポ、握って擦るだけで♡ 私も感じちゃって♡ ご奉仕気持ちいい♡ もつともつと、リーダーの熱も、匂いも、硬さも感じさせて下さい♡」

粘液怪人「カウパー溢れて、どろどろお♡ ぶっといオチンポ、W手コキで情けなく、せーえきぶちまけちゃうんだあ、くすす♡」

ピンク「まけちゃいましょう♡ リーダー♡ とつても気持ちいいですよ♡ 正義のリーダーなのに、仲間に手コキでイカされちゃうんだ、くすす♡」

ピンク「出せ出せ出せ♡ もういいんです♡ 精液出して♡ 仲間の手で敗北射精して♡ ね、ね♡ いっぱいっばい射精しちゃいましょう♡」

粘液怪人「あんっ、ギトギトのせーし、噴き出してえ……」

ピンク「おてて、べつとべとお……はあ、はあっ……」

粘液怪人「それじゃあ、素直になつたピンクちゃんにオチンポ譲つてあげる♡」

ピンク「はあ、はあ♡……リーダーのチンポ♡ あ、あ♡……もう限界♡ リーダー、リーダー♡

リーダーの腰に無理やり跨つてえ、あ、ああ、あああっ、ぶっといオスマア、啞えこんじゃうの♡」

粘液怪人「じゃあ、私はお顔の上にい、んしょ——」

ピンク「あふ、はふう、んうう、そそり勃つたオチンポ、すっ、すっひひ、一番、奥に当たつて、くるくる♡ 気持ちいいのきちゃうの、あお、あおう、あおおんッ♡」

粘液怪人「私はどろどろのおまんこを、んい、んいい、リーダーのお顔に擦りつけちゃう♡ ほらリーダー、せうかくピンクがよがってるんだし、しつかり腰、使つてあげて♡」

ピンク「あん、あんん、オチンポ中でさらにガチガチになつて、もつともつと突いて♡ 淫乱マンコぐちゃぐちゃにして♡」

ピンク「興奮しちゃってるんですか…うそ、ですよ？ マゾでも良いです♡ リーダーなら♡ こんな素敵なオチンポで突いてくれるなら♡ いい、いい♡」

粘液怪人「でも、仕方ないですよ、んい、んい、おまんこに自分から鼻突っ込んで、すゝはゝしちゃってるんですから、あ、ああ、クリも、入り口のひだひだもリーダーに食られて、気持ちいい、たまらなく感じますう♡」

ピンク「ひん、ひん、勃起、ありえないくらいガチガチで、子宮に響くう、おふ、おふお、おほお、おおつ、リーダー最高すぎます♡ このまま出して下さい、私にリーダーのマゾ射精欲しいです♡」

粘液怪人「だつてえ、ほらあ、ピンクに出してあげて♡ 玉袋、空っぽになるまで、マゾチンポから、精液噴き出しちゃえつて。そらそらう♡」

ピンク「あと少しですね♡、ひぐ、ふぐぐ、自分で腰跳ねさせて、我慢できてないですよ♡」

粘液怪人「だつたら、こっちも♡ どちらのお股、窒息するくらい強くう押し付けてあげる。んう、んうう♡」

ピンク「あんん、中でやらしく震えて、もう射精するんですね。いいですよ、思い切りびゅぐらせて♡ おまんこ、いっぱい締めて、リーダーのザーメン、とことん搾つてあげるからッ♡ リーダー、リーダー、りーだーああつ♡♡♡……」

ピンク「あふあ、あはあ……リーダーの濃いのがいっぱい中に♡ 幸せですよ♡」

粘液怪人「まだ、終わつてないよ♪ 体勢を変えて、ほらピンクは後ろ。今度は私の番♡」

ピンク「リーダー、ピンクゴムのおまんこ♡ いいですよ？ 私もおっぱい押し付けて♡ サンドイッチしてあげますね♡」

粘液怪人「それじゃ、私ピンクゴムは怪人らしく仰向けのリーダーを上から柔らかな体で圧倒しながら、んい、んい、上から搾精プレスしてあげるっ、ね♪」

ピンク「リーダー、頑張つて。くすすっ♪」

粘液怪人「そうですね♡ 少しはおまんこ、楽しませて欲しいです」

ピンク「つて、聞こえてます。腰、ビクビク跳ねさせて、もう出しそうですか？ 出して良いんですよ♡」

粘液怪人「あ、ああ、いい、いいの、気持ちいい♡ タイミングがあつて、腰同士、密着するときの突き上げえ、たまらないですよ♡ おまんこの底、圧迫されてえ、子宮が歪められる感じ、好き、好きですよ♡ お、おおっ♡」

ピンク「リーダー、リーダー♡ もう全部投げ捨ててちゃんほだけ感じて♡ いいじゃないですか♡ ピンクゴムと私で気持ちよくしてあげますから♡ ちゃんほから射精♡ それだけ考えて♡ 私と、私達と一緒に気持ちよくなりましょう♡」

ピンク「リーダーなんて男性器以外に価値のない存在ですから♡ 私も、それはおんなじです♡」
粘液怪人「あ、ああ、あああ、オチンポ、チンポ、チンポお、奥までズンズン響いて、ありえないくらい、気持ちいい♡」

粘液怪人「さ、たっぷり搾りますからあ、覚悟してえ♡」

ピンク「射精♡ 射精♡ 射精♡ リーダー、射精しちゃいましょう♡」

粘液怪人「チンポ♡ リーダーのチンポ♡ 貪るの気持ちいい♡ リーダーも気持ちいいでしょ、ね♡ね♡」

粘液怪人「必死に腰をへこへこ振る、その姿あ、最高にかわいいです♡ さ、このまま正義のパワーも、精液も、すべて吐き出して♡ そのまま洗脳してあげますからあ♡」

ピンク「堕ちましょう♡ 堕ちましょうよ♡ リーダーあ♡ ずっと尊敬してたけど、それは昔のリーダーで、今のオチンポマゾじゃないから♡ もう守るものなんてないし、ザーメン発射して、墮落しちゃって♡」

粘液怪人「びゅっびゅっびゅっ、びゅるるっ、射精して♡ 堕ちて♡ リーダー♡ あ、ああ、すごい量…子宮の奥まで、せーしで、じゃぶじゃぶう、洗われちゃってえ…あふえ、んふええ…」

ピンク「結合部から、濃厚なザーメン、逆流しちゃって♡ まだ、こんなに溜めてたんですね。でも、ほとんど空っぽですよ？ そのぐったりした様子見てたら、だいたいわかります♡」

粘液怪人「ね、リーダー…追い込まれちゃいましたね♡ くすくすっ、あと一回射精したら、9パーセントの確率で洗脳が完了ですから♡」

ピンク「今度は私のアナルで♡ 搾り取ってあげます♡」

粘液怪人「じゃあ、私は両サイドからおっぱいプレスと乳首責め、ね♡」

ピンク「リーダーに私の穴♡ 全部味わってもらうの♡ ケツマンコ気持ちいい♡ あは、あはははは♡♡♡……！」

粘液怪人「むにゅむにゅ押し付けて♡ ぐりぐりつねって♡ 抵抗なんて無意味ですよ♡ あんなに守りたかった。ピンクの穴で果てましょう、ね♡」

粘液怪人「新しい扉、開いちゃお♡ 堕ちちゃうの、悪くないからあ♡」

ピンク「リーダー、射精していいですよ♡ もう、いいんです♡ 我慢せずに私にせーし出しちゃって♡」

粘液怪人「リーダー♡ 射精♡ 気持ちいいよ♡ なんにも考えずにびゅっびゅーしちゃうの♡」

ピンク「リーダー、リーダー、リーダー♡」

粘液怪人「リーダーあー♡ リーダーあー♡ リーダー♡♡♡」